



はまなす季刊

医療法人はまなすHP ▶▶▶ <http://www.hamanasugeka.com>

医療法人
はまなす **篠路はまなすクリニック**

〒002-8024 札幌市北区篠路4条9丁目12番45号
TEL (011)776-3030・FAX (011)776-3001

医療法人
はまなす **はまなす医院**

〒061-3284 石狩市花畔4条1丁目141番地1
TEL (0133)64-6622・FAX (0133)64-6555



トラフズク
工藤立史 撮影

巻頭言

モルダウ

副理事長 工藤 立史

今年はスメタナの生誕200年にあたります。6月にウイーンで行われた恒例の野外コンサートでも代表作「モルダウ」が演奏されました。先日その模様がNHKで放映され、暮れてゆくステージのライトアップは幻想的でした。

「モルダウ」は交響詩「わが祖国」の中の一曲でチェコ出身のスメタナが実在のモルダウ川をイメージし、愛国心をこめて作曲しています。この川はチェコ西部の水源地から首都プラハを通り抜けてドイツのエルベ川に合流しています。

20年ほど前、私はプラハを旅行した際スメタナのお墓を訪れたことがあります。郊外のヴィシエフラットという丘が墓地公園になっており、そこからモルダウ川と、その向こうにプラハ城を見ることができました。この川をテーマに曲が作られたのも頷ける気がしました。

かつてチェコがオーストリアの支配下にあったとき、「モルダウ」は独立運動の支えになりました。第二の国歌と言われるほど親しまれているこの曲を、いつか再びプラハを訪れて聴いてみたいものです。

美術家たちの同期会 「SAIKAI」にて

理事長 工藤 岳秋

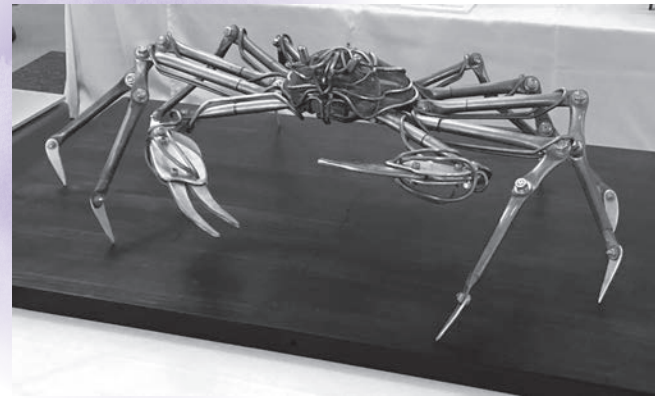


▲左から齋藤さん、筆者、筆者の長男

7月の終わり頃、SNSで展覧会の知らせが届いた。かつてのスキー仲間、齋藤啓代さんからである。彼女とは30年ほど前、私がまだ学生だったとき、お互いにシーズン会員としてキロロのゲレンデで毎週のように顔を合わせていた。そういえばその頃、彼女が中学校の美術の先生だと伺ったことがあった。今回の展覧会には、彼女の描いた絵も出展されるという。

8月の中旬、会場となった札幌市資料館に足を運んだ。ここは大正15年から昭和48年まで裁判所だったところである。大通公園の西端に位置するこの建物は、札幌軟石を用いたルネサンス様式の佇まいを擁し、国の重要文化財に指定されている。

2階の会場に入ってみると、学校の教室よりやや広い部屋に作品がひしめき合っていた。壁に掛かる絵は油彩、水彩、鉛筆画、墨絵、日本画、と多彩である。ひととき目を引いたペーパーレリーフにはLEDの光が当たって刻一刻と色調が変化し、その陰影が幻想的な雰囲気を出していた。展



▲千葉光弘 深海から -ズワイ- (真鍮、アルミ他)

示台に目をやると、割りばしで組み上げた竜、針金の鳳凰、真鍮のズワイガニ、銅細工の恐竜などが置かれ、子供たちが作品に触れて遊んでいる。そこには静寂を旨とする一般の美術館とは異なる賑やかで楽しい世界が広がっていた。

齋藤さんの作品は「プリンセス」と題する水彩画だった。大輪のバラの花が一輪、画面いっぱい描かれている。中央は杏色で、外側にかけて桃色のグラデーションが濃くなっていく。このバラ、実は「ピース」という品種なのだが、彼女のお祖母様が何か「プリンセス」と呼んで、大切に育てていたものだという。細密な描写だが、柔らかな輪郭と優しい色使いからは、お祖母様を懐かしむ気持ちが滲み出ているようであった。

今回の展覧会には「SAIKAI」とい

うタイトルが付けられていた。北海道教育大学札幌分校美術科1984年卒の同期生が卒後40年を機に催したものである。「やっぱり美術が好き!」という気持ちを表現し、定年退職を経た今、新たな一歩のためのエネルギーを得よう、という企画だという。画家だけでなく様々なジャンルの美術家が集まっており、還暦を過ぎてもなお、これからが本番とばかりにほとぼり出る創作意欲に脱帽した。私たち医学部の同級生も卒後40年を迎える頃、彼らのように前向きでエネルギーでいられるだろうか。そんなことを自問しつつ、会場を後にした。



▲齋藤啓代 プリンセス (水彩)



～表紙写真説明～ **トラフズク** **「聞き耳」を立てる!?**

工藤 立史



トラフズクはフクロウの一種です。8月下旬の夕方、前田森林公園にて撮影しました。今年生まれ育った若鳥で木の高いところに止まっていた。昼間は林の中でじっと眠っているのですが、暗くなるにつれて活発に動き出します。公園内の決まったエリアに住み着いており、散歩などで訪れる人たちにもお馴染みになっています。「聞き耳を立てた」ように見える2本の角は「羽角(うかく)」といって周りを警戒するときを立てるものです。撮影時、犬を連れた人がたまたま近くにおり、それを意識したようです。しかし音を感じる機能はなく、本当の耳は顔の左右にあり羽毛で隠れています。来年もここでトラフズクが繁殖し、市民の目を楽しませてもらいたいものです。

はまなす季刊の 編集委員になりました。

総務 永田 裕士

2020年1月コロナと共にやって参り、医療法人はまなすに入職して今年で5年目となります。

転職先を探す時にきっかけのひとつとなったのが、このはまなす季刊でした。医療の話だけに留まらず、多種多様な話題が掲載されていて、また懇親会の写真などを通し、職場の良い雰囲気が伝わってきてここで働きたいと思い求人情報に応募しました。

よく多趣味と言われ毎日忙しく動き回っていますが、その中に20年以上続けている「雷魚釣り」があります。

雷魚は蛇柄で一般的には気持ち悪い魚でしかも外来魚です。最大で100cmに達するサイズの大きさとその気持ち悪さになぜか惹かれています。

釣りはトップウォーターでのフロッグを使ったカバーゲームです。簡単に言うと、菱の張った水面を

蛙の疑似餌(ルアー)を泳がせて誘う釣りです。

この釣りの魅力は、ルアーを見つけてから雷魚が近づいてくるのが分かるドキドキ感と、食いついた時の「パフォ!!」という捕食音の迫力です。

食わせてからは、力いっぱい合わせ、引きを楽しむ間もなくドラッグをギチギチに締めたリールでゴリゴリに巻いて力技で菱と一緒に引き上げます。

釣りに行く回数も、費やす時間もすっかり少なくなりましたが止めることができない楽しみです。

この度はからずも入職するきっかけを作ってくれたはまなす季刊の編集に携わることとなりました。読者の方の心に残る季刊誌をお届けできるよう努めたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(PS:「雷魚」の釣果などはいずれ詳しく書きたいと思っています。)

1924年の 「所療診すなまは村路篠」

篠路はまなすクリニック
消化器センター長 山本 純司



私が当院に勤務して5ヶ月になるが、いつも気になることがある。
南側にある広大な空き地（写真右半分）はいつたい何なのだろう。

ここ篠路は50年前から宅地化が進み、駅周辺はほぼ住宅地だ。そんな駅から徒歩10分圏内の大きな土地がどうして活用されないのだろうか。

調べてみると、どうやら伏籠川ふしかがわに理由がありそうだ。

1948年の航空写真（現在の当院を黒枠内に合成）を見ると、病院南側の空き地は馬蹄形に伏籠川（航空写真右上）と繋がっている。1920年の地図だとここは「枯れ谷」となっているので、伏籠川が蛇行してできた低湿地だった、とわかる。

札幌市のハザードマップでこの区画は「過去に浸水被害のあった土地」とされる。川底だった土地は水はけが悪かったり、地盤が緩かったりして宅地化するのに手間がかかる分、この造成は後回しになっていたのではないだろうか。

表題に戻る。篠路はまなすクリニックが100年前の大正13年に開業していたら、どんな風景が広がっていただろうか。大正13年といえば北大医学部1期生もまだ卒業していない時代で、ここが篠路村だった頃。現在私が通勤に歩いている篠路駅東通りはまだ開道してないので、診療所の玄関は北側になる。南側の窓からは一面の燕麦畑や玉葱畑、そしてこの湿地帯を見ることができただろう。

航空写真右端の森林地帯は現在でも五ノ戸の森緑地として残っている。ここで見られるカエルやアオサギといった生き物の姿がこの湿地帯でも沢山見られ、夕方ともなるとカエルの大合唱が聞こえたのではないだろうか。

100年前の医療内容は全く想像がつかないが、ペニシリンも無い時代。治療は漢方薬中心だろう。

国鉄札沼線は開通していないものの、石狩街道まで出れば札幌・花畔間に馬車鉄道が開通していた。馬鉄横新道駅（篠路と石狩街道をつなぐ横新道はすでに存在していた）を利用して、開院したばかりの北大病院へ重症患者を紹介することは可能だったろう。

ここは現在土木工事が始まっており、宅地造成されるものと推測する。100年後には住宅がびっちらと並んでいるかもしれない。100年後の医療はどんなものだろうか。



▲ 1948年航空写真

日本透析クリアランスギャップ研究会・ 学術集会で発表しました。

管理栄養士 谷口 絵里奈

8月31日～9月1日にホテルライフオート札幌で行われた「第18回日本透析クリアランスギャップ研究会・学術集会」に出席しました。この学会は2006年11月に発足され、腎不全・透析療法に関し、良好な透析効率を維持することによる透析患者のQOL、ADLの改善を目的に活動をしています。ちなみに透析クリアランスギャップとは、透析の効率のことで透析機器での設定効率と実際の透析効率の差(10%以下が正常値)のことです。

私は、シンポジウム3「透析と栄養食事・食事管理」部門において、「有床診療所の栄養管理」と題し、当院の紹介と取り組みについて発表しました。当院は、月に一度給食会議を行い、給食・栄養管理の質の向上に努めています。また、藤女子大学との連携により、透析患者への情報やレシピ提供、管理栄養士育成にも力を入れています。他の発表では、「透析クリ

アランスギャップを加味した栄養管理について」、「透析施設における栄養療法の変遷と持続可能性」など興味深い内容の発表が多く、発表後には他の演者の皆様と意見交換をさせていただきました。日常業務の中では他院の医療従事者の方とこのような機会がなく、大変刺激を受けました。今回の学びを業務に生かせるよう努力してまいります。



たなかひろこ 藤女子大学の田中洋子先生をご紹介します！

谷口 絵理奈

副理事長の紹介で2015年4月より当法人の給食業務の指導に来ていただいています。当時、外部業者に委託していた給食を直営へ切り替えた際には多くの助言をいただき、現在も自前で給食を提供しているところです。2016年以降、田中先生の紹介で食物栄養学科の実習生を受け入れるようになりました。学生が作成した透析食に関するポスターは好評です。患者さんへのアンケート調査を基に私が栄養学会で発表したこともあり、当院と大学との連携を

深めています。

胆振東部地震によるブラックアウトの後には、災害用備蓄品に関するアドバイスもいただきました。また私事です産休・育休をいただいた際には代替りの栄養士を紹介くださり、業務が途切れることはありませんでした。毎月行われる給食会議に参加していただいております。今後もご指導のほどよろしくお願いたします。



田中 洋子

天使女子短期大学 食物栄養学科卒業
札幌鉄道病院（現・JR札幌病院）25年勤務の後、藤女子大学非常勤講師、クリニックの管理栄養士をしながら天使大学看護研究科栄養管理学専攻、栄養学修士・博士を取得。2016年より人間生活学部食物栄養学科助教、2021年より同学科准教授。

令和6年
9月19日

「患者と家族のための腎臓病教室」 が開催されました

(山田 尚子)



腎臓病教室も今年で3年目を迎え、患者、家族7名と職員12名が参加しました。

当院院長から「あなたの腎臓は大丈夫？」をテーマに慢性腎臓病が悪化するとどうなるのか、また腎臓病治療についてわかりやすく講義がありました。また、過去2年は【栄養】がテーマでしたが、今年は新たに【運動】をテーマとし当院の理学療法士が「腎臓のための効果的運動療法」について講義しました。患者が自宅で手軽にできるよう、座って行う運動を参加者で実施してみました。力任せにするのではなく、ゆっくり動かすことが筋肉を刺激し効果的だと学びました。

今後も腎臓病教室を通して、地域の患者が安心して治療に専念できる環境を作っていきたいです。

篠路透析室歓迎会を 開催しました

9月14日(土) グラツェ北2条店にて篠路透析室の歓迎会を行いました。42名も参加し席もくじで決めた為、いつも以上に他職種間の交流を深めることができとても楽しい会となりました。

(野口 公貴)



information

「石狩エリアのCKD診療を考える会2024」 2名の先生にご講演いただきました

◎ 2024年10月30日 📍 ニューオータニン札幌
主催 協和キリン株式会社

石狩エリアの
CKD研究会 世話人 工藤 立史

石狩市内の医療機関の先生方を中心に、腎臓病に関する勉強会を年に2回開いています。この度、一般講演として石狩病院内科の堀田秀一郎先生に糖尿病関連腎臓病についてご講演いただきました。糖尿病に併発する腎臓病の病態と治療方法につき分かりやすく教えていただきました。特別講演としてJCHO北海道病院腎臓・膠原病センターの山本準也先生に「札幌南部におけるCKD診療連携」についてお話いただきました。急性腎障害の診療、慢性腎臓病の治療、近隣医療機関との連携など内容は多岐にわたりました。JCHO病院は私が昔勤めていた施設でもあり、当時の診療内容と比べながら懐かしい思いで講演を拝聴しました。また来年もこのような勉強会を開いて地域の腎臓病診療を充実させていきたいと考えています。



▲ JCHO北海道病院 山本準也先生

甲子園のダイバーシティ

この夏体調をくずして体を持て余していた時、タイムングよく甲子園の全国高校野球大会が始まった。おかげで2週間ほどの間無聊(ぶりよう)をなくさめることができた次第である。

人命も危ぶまれるような暑さ、と報じられる中で選手は皆ひたむきにプレーをした。ゲームの内容もさることながら校歌や応援歌などグラウンドの周辺にも関心を引かれた。

まずは16年ぶりに初戦に勝ったという県立・菰路(こもろ)高校(三重県)。校歌が字幕に流れるとき作詩・山口誓子というところに目が留まった。山口誓子は明治から昭和にかけて日本の俳諧をリードした。そんな俳句の大家がたつたひとつの学校のために作詩をしていたとは驚いた。一期三重県の知人のところに身を寄せていたというからそこに接点があったのかもしれない。

中京大中京高校(愛知県)の校歌の作詞・佐佐木信綱にも驚いた。「♪卯の花の匂う垣根にく♪」という歌詞で有名な「夏は来ぬ」の作詞者である。彼は国文学者、歌人として明治時代に頂点にあった。その一方小中学校だけで25校もの校歌を手掛けている。

「校歌斉唱！」(新潮選書・渡辺裕)によれば多くの校歌が甲子園野球にけん引されて作られたと

いわれる。ラジオ、テレビからネットへとメディアが移り変わるなかで甲子園大会はリアルタイムで放送されてきた。このとき勝利校の校歌は全国に向かってアイデンティティを誇示できる最高のアイテムである。それに影響を受けてかどうか野球とは無縁の小中学校や女子高にまで続々とマイ校歌が生まれたというのである。卑近な例として、クリニックの近くの篠路小学校と石狩市の花川小学校は明治初期に創設された。どちらも150年を超える伝統校である。それぞれの校歌は何時ごろ誰によって作られたのだろうか？いつか識者に訊いてみたいと思っている。

京都国際高校は札幌日大高校が初戦で敗れた相手である。この校歌はハングルだった。2回戦以後も次々と勝ち進んでついに優勝したから結果的にこの夏に最も数多く校歌を聞いた学校となった。だがTV画面のハングルの詩は何度見てもなじめなかった。

甲子園ではチアリーダーとブラスバンドの応援が華やかさを彩る。初めて「狙いうち」を聞いたときはニヤリとした。ウーララ・ウーララッ！というかけ声とアノ振り付けがおのずと頭に浮かんでくる。打席に立ってこんな曲を大音響で聞けばアドレナリンがわくこと間違いない。だが高野

連役員のお歴々は煽情的な山本リンダを思い浮かべて何と思ったか。今年はこの曲を聞かなかったがはたして演奏禁止になったのだろうか？

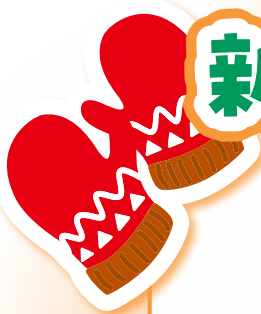
昨年優勝した慶応高校で選手の長髪が話題になった。今年は短髪と長髪が入り混じっているチームもあった。髪の長さで勝敗が決まるわけではないから自由なのがいい。

数年前からダグアウトに女子生徒が見うけられる。この夏、地方大会で女子のキャプテンが登場してニュースになった(兵庫県・三田西陵高校)。捕手として130km/hの球を受け、遠投は85m、チームメートから「(主将は)あいつしかおらん」といわれたという。高野連の規則は女子の公式試合の出場を許可していない。だがそこを曲げてプレーを見てみたかった。

半世紀以上もの長きにわたって高校野球を楽しませてもらってきたが、いぶん様変わりしたように思われる。山口誓子や佐佐木信綱の時代からブラスバンド、山本リンダ、ハングル、女子生徒、長髪などいつの間にかダイバーシティの波が押し寄せているのだ。

大谷翔平という不世出のスターを生んだ甲子園である。はたして来年はどんな展開が待っているのか。グラウンドの内外ともに期待値が高い。

新しく入りました!




7/22

篠路はまなすクリニック
庶務 田中 恵美



7/1

篠路はまなすクリニック
看護師 進藤 聖恵



8/9

篠路はまなすクリニック
看護師 八木 法子



9/1

はまなす医院
庶務 竹内 明儀



原明美さんの死を悼む

会長 工藤謙三

先月5日、原明美さんが亡くなられた。この夏の初めころ腹痛で当院にかかっていたが、それからおよそ3か月、あえない報告を受けることになってしまった。見つかったときすでに広範囲に進展した虫垂がんだった。まがりなりにも消化器外科を標榜する身としてもっと早くに手厚くしてあげられなかったかと慙愧に耐えない。

彼女は当院の病棟看護師として長らく勤めてくれた。だが、私とはもっと以前に出会いがあった。35年ほど前のことになる。私が勤務医だったとき一緒に職場で一つ屋根の下に居合わせたのである。もう閉院してしまったが開成病院といえば知る人も少なくないだろう。そこで一緒だった。袖振り合うも他生の縁、再び一緒に仕事をするようなめぐりあわせだった。

病棟での貴重な戦力であるばかりでなく、イベントのコーディネーターとしても才能を発揮してくれた。忘年会の余興をプロデュースするのが得意だった。はまなす季刊の編集委員としてもその才能を発揮してくれた。

もうあの物静かな笑顔が見られないと思うと心底寂しい。私とは20歳近く離れているが月並みな弔辞では表しきれないものがある。寄る年波の私も遠からずそばに行く。そこで再々顔を合わせるだろう。そのとき親しく穏やかに語り合おう。合掌。

篠路から石狩へ 異動しました!



10/1
はまなす医院
看護師 菅原 由希子

編集後記

我が家では毎年小さい家庭菜園をしています。恒例なのはきゅうり等手のかからない野菜ばかりです。今年はなすが大豊作で、友人にも協力していただきましたが消費するのに一苦労でした。なす料理はしばらく遠慮しようと思います。

(M・F)